

# 第16回 夏休み自然観察記録コンクール

- ◇募 集 7月23日～9月16日
- ◇応 募 北海道内の小学校32校から80点
- ◇入 選 入賞9点、佳作20点、学校賞2校
- ◇審査委員 伊達佐重（審査委員長、北海道自然保護協会常務理事）  
坂本雅彦（北海道新聞野生生物基金事務局長） 佐藤 謙（同協会会長）  
在田一則（同副会長） 福地郁子（同常務理事）  
江部靖男（同常務理事） 久野裕之（同理事）  
横山武彦（同理事） 堀 繁久（北海道開拓記念館学芸員）
- ◇主 催 社北海道自然保護協会  
北海道新聞社  
財北海道新聞野生生物基金

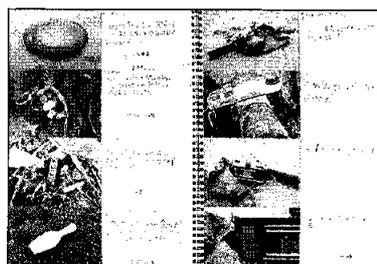
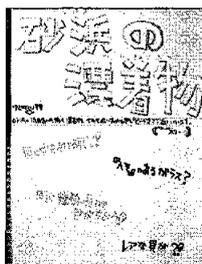
第16回夏休み自然観察記録コンクールの審査会が9月29日、北海道自然保護協会内で開かれ、入賞、佳作合わせて29点と学校賞2校が決まった。最高賞の金賞には札幌市立真駒内緑小6年の堀江まいさんの「砂浜の漂着物」が選ばれた。

その他の入賞、佳作は以下の通り（敬称略）。

▽銀賞 名郷根慧（札幌市立大倉山小2年）「セミのけんきゅう」、早田秀平（札幌市立真駒内緑小4年）「真駒内公園巨大キノコさがし」

▽銅賞 櫛引駿斗（札幌市立大倉山小1年）「ひょうほんばこ」、能代谷亜門（同小2年）「トマトのせいちょう」、金澤寿靖（札幌市立円山小2年）「モクズガニのかんさつ」、矢部達之（札幌市立真駒内緑小3年）「野菜の観察」、中崎千尋（札幌市立北都小4年）「ガマの秘密」、徳山芳樹（札幌市立藤野小6年）「コオニヤンマの観察」

▽佳作 佐藤帆（札幌市立大倉山小1年）、谷藤全（道教育大付属函館小1年）、西村弥菜（伊達市立伊達小1年）、阿部丈一朗（札幌市立大倉山小2年）、池田武蔵（同）、吉川貴一朗（同）、須田ゆめか（札幌市立真駒内緑小2年）、上林祐太（旭川市立西御料地小3年）、芳賀美月（札幌市立大倉山小3年）、三上桃花（札幌市立真駒内緑小3年）、奥津菜摘子（同小4年）、加藤奈津子（同）、千葉みずき（同）、鈴木壮太郎（大空町立女満別小4年）、



金賞 堀江まいさん（札幌市立真駒内緑小6年）「砂浜の漂着物」

石川龍星 (函館市立金堀小5年)、小森悠生 (豊富町立兜沼小5年)、小出斎 (江別市立野幌小6年)、古村花織 (札幌市立真駒内緑小6年)、鈴木静八 (札幌市立大倉山小6年)、西川実里 (同)

▽学校賞 札幌市立大倉山小、札幌市立真駒内緑小

成功の鍵 ..... 審査委員長 伊達佐重

堀江まいさんは海岸に打ち上げられた漂着物を探し、レンズの力も借りてまとめ上げました。誰も目を向けていなかった事に気づいた点が成功しました。名郷根慧さんはセミの大きさ、鳴き声、羽化までの様子など、違いにこだわって詳しく調べあげました。よく見て感じた事を素直に表現しています。早田秀平さんは、公園のどこにどんなキノコがあるかを地図上に表したのが良かったです。今後も継続して追ってほしい課題です。

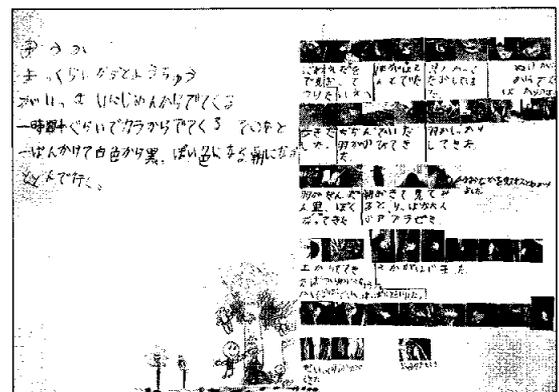
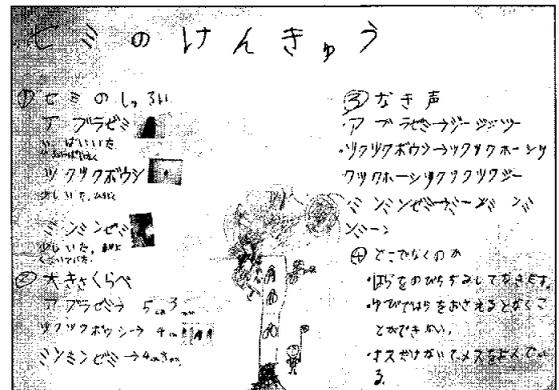
櫛引駿斗さんの「ひょうほんぼこ」は、発泡スチロールの底と4つの側面を立体的に使ったアイデアが評価されました。能代谷亜門さんはトマトを育てながら詳しく調べて、分かりやすい絵と説明が光りました。金沢寿靖さんはモクズガニを細かく観察し、実に詳しく記録しました。昨年より大きく進歩しています。矢部達之さんは庭の野菜

の成長ぶりを4週間にわたって記録を続けました。まとめをクイズ形式にしたのは、知識を確実に自分のものにするためにも有効ですね。中崎千尋さんは、水辺に生えているガマの茎や穂や茎の切断面を拡大の目で眺めながら細かい点まで見つめました。徳山芳樹さんのコオニヤンマの絵は細かい線を生かして見事な出来栄でした。

毎年新しい題を決めて取り組む人や、一つの事を何年間も続けて研究する人もいます。観察の基本は、自分の目でしっかり見てスケッチし、見た事や感じた事をそのままの言葉で文にするのです。人が誰でも見ている事の中から、誰も考えなかった事を思いつくのが成功の鍵かもしれません。みなさんの自由自在な考え方や、いい思いつきが大切なのです。来年の挑戦を期待しています。



銀賞 早田秀平君 (札幌市立真駒内緑小4年) 「真駒内公園巨大キノコさがし」



銀賞 名郷根慧君 (札幌市立大倉山小2年) 「セミのけんきゅう」